

報告事項コ

青谷上寺地遺跡及び妻木晩田遺跡の発掘調査の成果並びに発掘調査委員会の検討状況について

青谷上寺地遺跡及び妻木晩田遺跡の発掘調査の成果並びに発掘調査委員会の検討状況について、別紙のとおり報告します。

平成25年12月20日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

青谷上寺地遺跡及び妻木晩田遺跡の発掘調査の成果並びに発掘調査委員会の検討状況について

平成25年12月20日
文化財課

平成25年度の青谷上寺地遺跡及び妻木晩田遺跡の発掘調査の成果並びに発掘調査委員会における検討状況は次のとおりです。

【青谷上寺地遺跡】平成25年度（第15次）発掘調査 … [図①]

1 調査目的

- (1) 西側周辺域における溝状遺構の走向と機能の解明
- (2) 湿地における土地の利用法の確認

2 主な調査成果

- (1) 古代の条里制遺構と考えられる盛土を確認 … [図②、写真①]
 - ・昨年検出した古代「山陰道」と考えられる道路遺構に直交する帯状の盛土を2条確認。
 - ・一昨年、昨年の調査でも同様の盛土が1条ずつ確認されており、計4条の盛土が約2.1m間隔で築かれている状況が明らかとなった。
→築造の間隔や方向性などから、条里地割の「坪」（10.9m四方の区画）を分割した境界である可能性が考えられる。
- (2) 弥生時代の溝状遺構を確認 … [図③、写真②、③]
 - ・第1次調査区で検出された溝状遺構の延長部分と考えられる2条の溝状遺構を確認。そのうちの1条では、矢板（先端を尖らせた板）による護岸施設を伴うことが判明。
 - ・遺跡中心域西側の低湿地において、積極的な土地への働きかけが行われていた状況が明らかとなった。

3 発掘調査委員会における主な検討項目

【第1回】平成25年8月27日（火）開催

(1) 水田の確認方法について

- ・周辺域が水田域であったことを確認する必要がある。
→その後の調査では、盛土間の堆積土が水田土壌である可能性を念頭において慎重に掘り下げるとともに、土壌サンプルの採取を行った。水田に係る小畦畔等は検出されなかったが、土壌の由来を検討するための科学的分析を業者委託により実施中である。

【第2回】平成25年11月13日（水）開催

(1) 溝状遺構の調査方法について

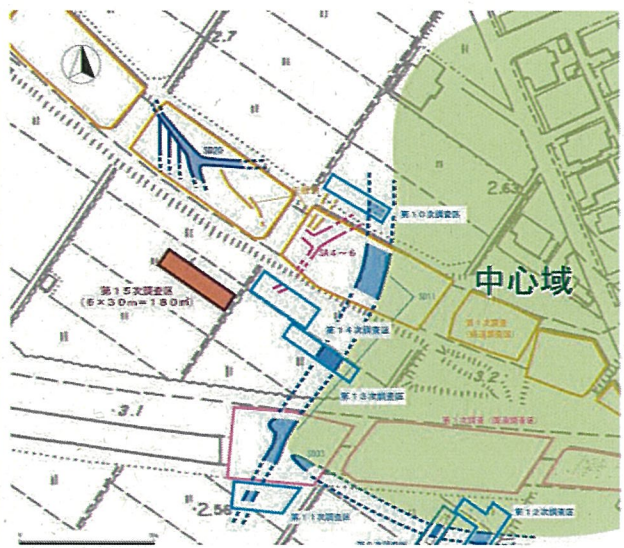
- ・溝状遺構が埋没し、湿地化していく過程を検証するための分析を行う必要がある。
→その後の調査で、溝状遺構の中央部分から土壌サンプルを採取し、科学的な分析を実施中である。

(2) 分析成果の標準化について

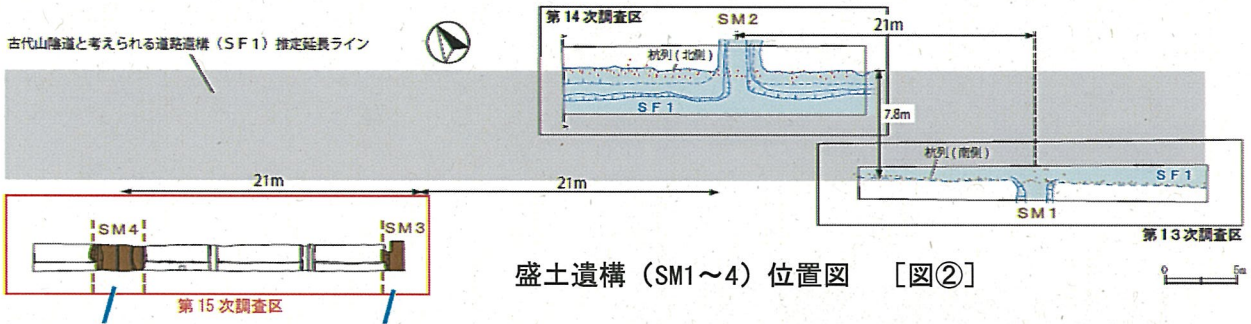
- ・花粉分析等の自然科学的分析の成果を積み重ね、青谷上寺地遺跡全体に適用できるスタンダード（標準）として確立する必要がある。青谷上寺地遺跡は資料の保存状態がよく、全国の標準となり得るので、継続的に発掘調査に取り組んでもらいたい。
→発掘調査委員会の指導を仰ぎながら、計画的に進めていきたい。

4 現地説明会

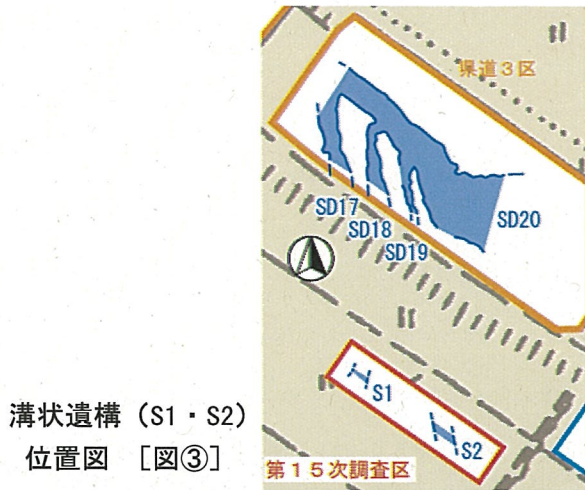
平成25年11月16日（土）に現地説明会を開催し、59名の参加があった。



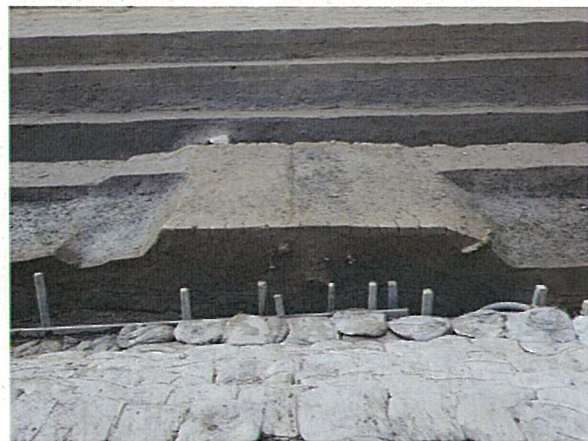
第15次調査区の位置 [図①]



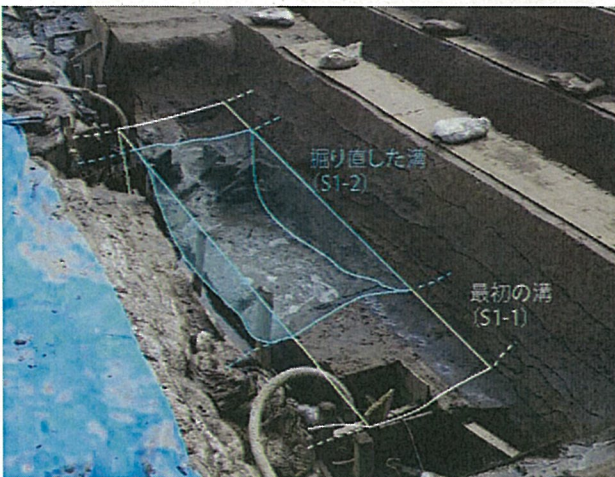
盛土遺構 (SM1~4) 位置図 [図②]



溝状遺構 (S1・S2) 位置図 [図③]



盛土遺構 (SM4) (北東から) [写真①]



溝状遺構 (S1) (北西から) [写真②]



溝状遺構 (S1) の矢板 (南西から) [写真③]

【妻木晩田遺跡】平成25年度(第28次調査)の発掘調査 … [図①]

1 調査目的

- (1) 平成23年に検出した石組みの埋葬施設の時期と実体の解明
- (2) 松尾頭墳丘墓群の広がりを確認

2 主な調査成果

- (1) 仙谷地区西側丘陵 … [写真①、②]
 - ・過去の調査成果を再調査、再検討することを通じて、妻木晩田遺跡で唯一の石組みの埋葬施設が、遺跡内最大規模の墳丘墓に伴うことが明らかとなった。
 - ・墳丘の規模は南北14m、東西16m。丘陵の尾根を2本の溝で区画、盛土を行っている。
 - ・墳丘の裾部から鉄器が出土した。
- (2) 松尾頭1・10区 … [写真③、④]
 - ・これまで未調査だった範囲に墳丘墓が分布することを新たに確認。松尾頭墳丘墓群の広がりが明らかになった。

3 発掘調査委員会における主な検討項目

【第1回】平成25年8月5日(月)開催

- (1) 仙谷地区西側丘陵の調査方法の見直しと今後の調査計画について
平成24年度に計画を策定していた仙谷地区西側丘陵の調査計画・方法に関する再検討(事務局案)に対して、各委員会から意見や指導を受け、調査に着手した。
- (2) 松尾頭地区1・10区の調査方法について
現地にて調査方針や調査の現状を説明、報告。各委員からの調査方法に関する指導をもとに、調査を実施した。

【第2回】平成25年11月27日(水)開催 … [写真②、④]

- (1) 仙谷地区西側丘陵、松尾頭1・10区の調査成果について
現地で調査成果を報告。調査指導を受けるとともに、次年度の調査方針にかかる検討を行った。また、石組みの埋葬施設を伴う墳丘墓を仙谷8号墓と呼称することを決定。
- (2) 平成26年度の調査計画・方法について
仙谷地区西側丘陵において仙谷8号墓の墳形を正確に把握するための調査と、埋葬施設内の調査を行うことを決定。埋葬施設の調査方法について詳細な検討を行った。

4 現地説明会

来年度も継続して発掘調査を行うため、現地説明会は平成26年度前半に実施する計画。ただし、妻木晩田遺跡活用実行委員会の委員と幹事、ボランティアガイドの会会員を対象に、平成25年度の発掘調査事業報告を目的とした調査見学会を実施。約40名が参加。



調査地点 [図①]



仙谷地区西側丘陵（仙谷8号墓）全景 [写真①]



【第2回】発掘調査委員会（仙谷8号墓）[写真②]



松尾頭地区10区（墳丘墓の周溝検出状況）[写真③]



【第2回】発掘調査委員会（松尾頭10区）[写真④]